

第十四回 玄和全国競書大会優秀作品



近藤 嵐光

審査所感

審査にあたって、感じた事など寸評として、記しておきたいと思います。11月23日玄和文化院におきまして、審査会がありました。

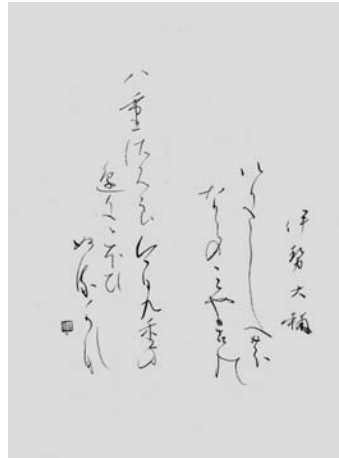
明石名譽会長はじめ常務理事5名、常任理事2名、他委員9名の先生方で午前10時より始めました。一般部半紙・条幅併せて約110点、学生部幼年～高校生まで約2050点の応募があり、昨年より若干増加という事務局からの報告で一安心いたしました。とにかく少子高齢化で書道人口が減少する中、増えたという事は、各指導者の先生方、勉強している生徒の皆さんの熱意に他ならないと思います。改めて感謝を申し上げると共に心より敬意を表したいと思います。

さて作品内容ですが一般部、学生部共に複数枚の出品が増えたのは努力の証しとして評価できるものの、単数作品の作品内容の高い作品に対しての評価も見逃してはならないのではという反省会での意見もあり、これからの課題だと思いました。一般部は何回も

— 玄和書道会賞 —



鋤柄 孝行(高一)



江部 澄峰



水村 正康(小三)



森田 千尋(小六)

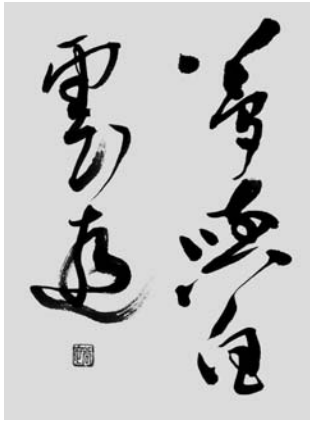


ケレハー加央里(中三)

見直し審査を行い、各審査員が全ての作品に目を通す念の入れようで、最終審査では同点が相次ぎ、2枚目、3枚目という作品で決着をつけたレベルが高く、玄和風の行草作品に加え、仮名、近代詩、隷書、篆書、臨書とあらゆる書体での出品でありました。しかしながら半折という事もありましたが、墨色の悪いもの、落款及び押印のバランス、雑なものも見られ小作品ゆえのいい加減さが目についたのは残念でありました。一方学生部は、毎月の課題を中心に出品されているようでしたが、高校生の臨書、中二、小学校三、四年の作品は群を抜いておりました。上位入賞の決めでは、やはり線の伸びやかさ、名前のしつかり書けている作品が強かったと思えました。以上、ほんの一部ですが来年の参考になればと思います。次回も、日頃の書技向上の一手段として挑戦していただきたいと希望いたします。

第十四回 玄和全国競書大会

審査委員長 菅井 松雲



森田 裕子



藤井航之郎(高二)



高橋 勝美



中村 秀月



宮川いろは(小二)



外崎 朱夏(小五)



柳原 未唯(中二)



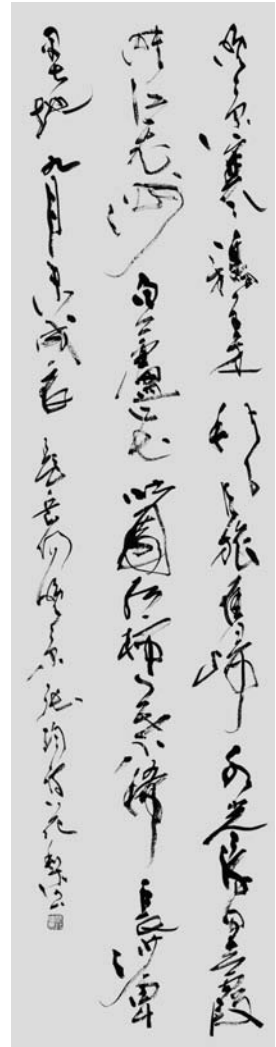
松田 琴春



大野 千草(高三)



圓山 翠蘭



菅井 花梨



杉谷 健誠(小一)



富田 究一(小四)



佐藤愛香音(中一)